

## 第五稿 梅田川（梅田川の由来と改修工事）

梅田川は、緑区を西から東に流れる流路延長約4.1km、流域面積3.86km<sup>2</sup>の横浜市が管理する1級河川です。

前編では、梅田川に関する改修事業や歴史について紹介していきます。

### 1 梅田川とは

梅田川は、緑区の三保町付近を源流として北東に流れ、新治町で恩田川と合流します。上流部には森林が、中流部・下流部には田畑や山林、住宅地が広がっています。



案内図



梅田川源流といわれる場所  
(三保市民の森)



一本橋

### 2 名前の由来

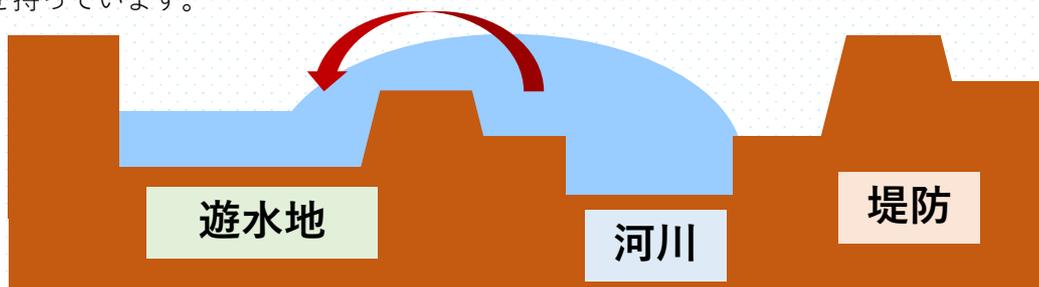
神奈川中央バス停「坂下」付近には、昔、大きな池があり「池の谷戸」と呼ばれていました。いつのころか新田開発に伴い、ため池を埋め立てて水田としたことから「埋め田」と呼ばれ、後に「梅」の字に改められて「梅田」となりました。（※諸説あります）



坂下付近

### 3 梅田川遊水地

梅田川の上流部には、洪水を一時的に貯蓄する**梅田川遊水地**が整備されています。**遊水地**とは、河川から溢れた水を**一時的に貯留**する場所のことです。遊水地があることによって、住宅地や道路など他の場所へ水が流れ込むことを防ぐことができます。貯留した水は、天気が回復したら少しずつ**河川や海に放出**します。**梅田川遊水地**も、平常時は**水辺公園**として利用されていますが、洪水時には河川水を貯留し、下流の**水位を下げる**役割を持っています。



遊水地の仕組み  
(断面図)



梅田川遊水地平常時  
(令和2年4月撮影)



梅田川遊水地洪水時  
(平成3年9月18日台風18号)

### 4 梅田川の改修事業

改修前の梅田川は、水深が浅く川幅が約1.8~2.7m、護岸は未整備で**板柵工**による法面防護が施されていま

した。**昭和30年代**に始まった**流域の都市化**により、山林・田畑の宅地開発が進みました。開発が行われる前は、雨が降っても、**地中に浸透**したり樹林地や農地に**貯留**されていたため、**下流への流出**は抑えられていました。しかし、開発が進み、地表がコンクリートやアスファルトで覆われたり、森林や水田がなくなったことにより、下流への**流出量が増大**しました。その結果、未整備河川周辺での**洪水氾濫**が頻発するようになりました。水深が浅い水路河川から田畑に水が流れ込んだり、家屋が浸水したりするなど、周辺の地域に大きな被害をもたらしました。



未整備区間：一本橋メダカ広場付近～西ノ前橋  
(平成3年9月18日台風18号)



未整備区間：杉沢堰付近  
(平成3年9月18日台風18号)

洪水の被害を小さくするために、昭和47年度から改修事業を開始しました。

改修事業には、建設省（現国土交通省）が創設した補助事業「都市小河川改修事業（現都市基盤河川改修事業制度）」を導入しました。都市基盤河川改修事業制度は、地域行政との関連を踏まえたきめ細かい治水対策を行うことを目的とした制度です。対象は、知事が管理している一級河川及び二級河川のうちの、流域面積がおおむね30km<sup>2</sup>以下の区間です。市長が施行主体となって、この区間の河川の改修工事を行います。

梅田川の河川改修事業では、当初、暫定的に6年に1回、将来的に20年に1回の確率で降る雨に対応できるように整備をする予定でした。しかし、流域の市街化が著しかったため、計画の見直しや恩田川改修工事との統合が行われました。改修事業では、新規河道の設置や河道断面確保、河床掘削、橋梁の新設・架替が実施され、梅田川の流下能力を増大することができました。**平成14年度に、10年に1度の確率で降ると予想されている1時間の降雨量が57.9mmの雨に対応する改修工事が完了しました。**

## 改修前



1級河川梅田川起点 三保橋付近  
(昭和60年11月撮影)

## 改修後



1級河川梅田川起点 三保橋からの視点  
(令和2年4月撮影)



西ノ前橋上流  
(昭和60年11月撮影)



西ノ前橋上流  
(令和2年4月撮影)

下の地図に記されているオレンジ色の線が現在の梅田川の河道、水色の線が昭和30年代の河道です。改修前は蛇行している部分が多く、流下能力が低下していたため、大雨の時に起こる洪水が起こる原因の一つになっていました。

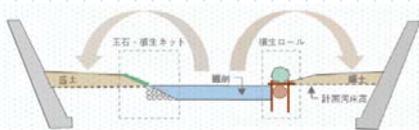
A



オレンジ：現在の河道  
水色：昭和30年代の河道

## 低水路化

低水路化とは、河床を掘削し、そのときに生じた掘削土を両側に盛って河原を作る手法です。生きものすみかや魚の退避場の発生、植生の増加など、多自然な川づくりにつながる効果があるため、積極的に事業が行われています。特に河岸の植物が重要で、水陸両方に植物がある状態の方が、水中または陸上のどちらかにしか植物がない状態よりも、魚が多く生息しているといわれています。



低水路断面図



西ノ前橋付近の低水路

## プロムナード

プロムナードとは、人々が快適かつ安全に利用できるように整備された歩道のことです。梅田川のプロムナードでは、並木や草花、川のせせらぎなどを楽しみながら散歩をすることができます。途中には公園があったり、河岸へ続く階段が整備されています。



一本橋めだか広場付近のプロムナード



河川部マスコット  
「ハマカワさん」

梅田川では、流域の変化に合わせて様々な改修工事を行ってきました。次稿では、梅田川の流域や自然イベントについて紹介します。